

通常型上部消化管内視鏡検査時の下咽頭観察におけるバルサマウスの有用性に関する検討  
へのご協力をお願い

(研究目的)

過去を含めた内視鏡画像を用いた後ろ向きの観察研究により、バルサマウスを使用した上部消化管内視鏡検査の下咽頭観察における有用性を検討します。

バルサマウスとは：バルサマウスは内視鏡検査時に患者の開口状態を保持する器具です。また、口腔内から空気が漏れることを低減するための器具でもあり、患者の呼気により口腔内の圧力を上げるValsalva法にて喉頭を挙上・展開させ、下咽頭検査を補助するために使用されます。

(研究対象)

松江赤十字病院を受診され、バルサマウスを使用した上部消化管内視鏡検査を受けられた方

(研究期間)

2016年6月16日～2019年6月16日

(研究方法)

当院で通常径の上部消化管内視鏡検査を受け、さらにバルサマウスを使用した内視鏡写真を確認し、その有用性を検討します。また、臨床データもカルテから、同時に収集します。

カルテ記録からは年齢、性別、血液検査所見、画像検査所見、病理組織学的検査所見、治療歴等をデータとして使用します。なお、個人情報には十分保護されます。

(その他)

情報の保護：

調査情報は松江赤十字病院にて厳重に取り扱います。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピュータに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。調査結果は個人を特定できない形で関連の学会等にて発表する予定です。

(問い合わせ先)

松江赤十字病院

<診療科> 消化器内科

<役職等> 副部長                      <氏名> 結城崇史

電話番号                      0852-24-2111 (代表)

対応時間                      平日 8:20~16:50